

# 「言葉を学びたい、誰かと通じ合いたい」 そんな願いを叶えるために

—『特定非営利活動法人 名古屋ろう国際センター』—

名古屋市西区に、ろう者のための日本語教室があります。その教室を運営する「名古屋ろう国際センター」理事長の金南玟(キム ナムユン)さんにお話をうかがいました。

## 外国人ろう者との出会い

金さんは、韓国で手話通訳の経験があり、結婚を機に来日した。来日当時は、金さん自身も日本語の壁に苦しんだと言う。「日本と韓国の手話は、簡単な日常生活の会話の場合70%くらい似ている。だから半分くらいは話が通じる」という金さん。はじめは手話を使って日本人ろう者とコミュニケーションをとり、日本語を学んだそうだ。その後、日本の手話通訳の資格も取得、ろう者のサポートを始めた。そこで出会ったのが、ろうの外国人だった。

「自分が外国人だからこそ、韓国からろう者が来日した時に、日本語を学べる場所がないということに気がつきました」。すぐには実現できないけれど、そういう場を作りたいという思いで、2010年頃から本格的に活動を始めた。6万6千人以上の外国人が暮らす名古屋市でも、外国人ろう者を対象にした日本語教室はここだけだ。

## 言葉を学びたい

外国人ろう者にとって、最初の大きな壁は、手話が国ごとに異なるということだ。それぞれの国の文字や文化を反映しているため世界共通ではなく、国によってさまざまな手話表現が存在する。「食べる」など、日常生活で使う手話は似ているものも多いので、何

となくわかるそうだ。しかし、少し専門的な内容になると通じない。

そうすると「筆談」ということになるが、そのためには日本語の文字の読み書きが必要になる。言葉を耳で聞いて覚えることができないため、読み方を身につけるのも至難の業だ。50音の1つ1つに対応した「指文字」を見て、読み方を覚えなければならない。

そこで、名古屋ろう国際センターの日本語教室でも、まずは日本手話の指文字から始める。基本的には、指文字とひらがなを同時に練習するが、日本の指文字はカタカナから来ているものがあるので、カタカナから先に教えることも多いそうだ。

現在、生徒は6人で、授業はマンツーマンで行っている。実際の授業では、教師が絵カードを見せて、生徒が、そこに書かれたものの名前を指文字で示す。文章の場合は、指文字で読み方を示してもらい、文字を正しく読めているかどうか確認する。その後、手話でもやってもらい、文章の意味も確認している。

日本語の文字の読み書きを学びたいのは、外国人ろう者だけではない。ろう者の場合は第1言語が手話で、第2言語として日本語を覚えるので、日本人のろう者が日本語を学ぶこともある。手話ができて、十分に文字の読み書きを身につけておらず、筆談でのコミュニケーションが難しい場合もある。役所での

Japon Ders Öğreniyorum  
edebilmek için Mutluyum  
ve çok sevindim

わたしは 日本こ  
べんきょうしまあ  
ととも しあわせうれし  
いです。

日本語を習って1年です。  
日本語は、むずかしいです。  
文化も、むずかしいです。  
でも、楽しいです。  
りかい できました。  
マナーも 学びました。  
うれしいです。  
もっと 学びます。

日本語教室の感想文です(左:トルコ人ろう者、右:韓国人ろう者)



「ワールドフード+ふれ愛フェスタ」で日本語教室を開催したときの様子

書類や学校からの手紙が読めない、記入できないということで、不便も多い。実際、この教室にも日本人ろう者が通ってきている。難聴になった方への手話教室はあるが、ろう者に対する日本語教室はほとんどないのが現状だ。

また、最近はスカイプを使った授業も行っている。きっかけは、静岡で暮らす外国人ろう者からの問い合わせだった。彼女は日本語を学びたいと思い、静岡の聴覚障害者協会に問い合わせたが、ろう者が日本語を学べる教室は見つからなかった。そんな時、新聞で名古屋ろう国際センターの記事を見つけたそうだ。教室に通うことはできないため、スカイプで授業を行い、宿題などのやりとりはラインを使っているそうだ。

「言葉がわかったときの喜びは、味わった人以外にはわからないでしょう。例えば、手話の場合は助詞が含まれているので、『私の』と『私が』の手話はそれぞれ違います。日本人のろう者が、『の』や『は』の使い分けがわかった!と、喜んでいる顔を見ると、本当にやっていてよかったと思います」と、金さんは、とてもうれしそうに話してくれた。

## 誰かと通じ合いたい、自分のことを話したい

月に1度開かれる「国際女子会」には、さまざまな国籍のろう者、聴者が15名ほど集まる。「暑い」と「熱い」の違いや、「月」に関するさまざまな言葉など、毎回テーマに沿って日本語表現を学んでいる。昼食を食べながら会話を楽しんだり、クイズ大会や交流会も開催している。「楽しい!」「大人数で交流しながら、勉強ができて楽しかった。また来たい」と好評だ。

また、ろう者が手話で教える「外国料理教室」も恒例行事のひとつだ。教えるのは、ここで日本語を学ぶ外国人で、これまでに韓国、中国、トルコなどの料理教室を開いた。年に2~3回開催し、毎回20名くらいが参加し、交流を深めている。

「はじめは、なかなか心を開いてくれない方もいます。そんな方が、教室や女子会に来ることで、少しずつオープンになっていく様子を見ると、すごくうれしいです」と金さん。取材にうかがった日も、授業がない方も事務所にきて、趣味を楽しんでいる姿が見られた。孤立感を感じることも多い外国人ろう者にとって、この教室は温かい交流と学びの場になっている。

## 多くの人に現状を知ってもらいたい

名古屋ろう国際センターでは、ろう者対象の日本語教室だけではなく、手話通訳や事務的な手続きの手伝いなど生活支援も行っている。しかし、主な収入源は聴者向けの手話教室の授業料や手話講師などの派遣料だけで、十分とは言えない。「本当は日常生活の生活支援をもっと手厚くしたいが、無償で行っているし、人手も不足しているので、なかなかできない」というのが、大きな悩みだ。そこで、最近は活動を知ってもらうために、いろいろな講演会などに積極的に参加するようにしているそうだ。

金さんは、「自分が手話もできて、外国人だからこそ、この問題に早く気がつくことができたと思う。また、この問題に気がついていない人が多い」と話す。いち早くこの課題に気づき、活動を続ける名古屋ろう国際センター。これからも、ろう者の思いに寄り添う支援活動が続く。

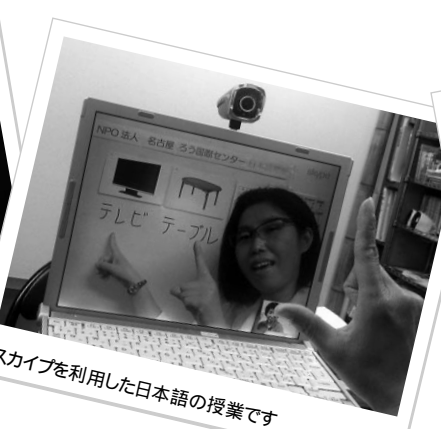
## Information

特定非営利活動法人 名古屋ろう国際センター  
名古屋市西区城西3-21-8 サンシャイン浄心南6階  
TEL: 052-982-7987 FAX: 052-523-1880  
E-mail: info@deaf-ic.jp  
ホームページ: <http://www.deaf-ic.jp/>

手話教室の受講生を募集中です!入門から通訳コース、そして外国手話も学べます。お気軽にお問い合わせください。また、活動を支援していただける賛助会員も募集中です。



普段の日本語教室の様子



スカイプを利用した日本語の授業です



国際女子会の様子